



感謝



日本史のアドバンテージがあります！ ～奈良に感謝～

東大寺、興福寺、元興寺、大安寺、西大寺、薬師寺、唐招提寺、法隆寺、これらのお寺または地名は、奈良に住んでいれば日本史を学校で学ぶ前に既に記憶している人は多いでしょう。教科書を開いて、「ここは行ったなあ」「ここも行ったなあ」「ここで遊んだなあ」などと思いながら授業を受けた人もいることでしょう。また、知っていなくても、「あそこがそうなんや！」と、スムーズに記憶に結びつけることができます。

お寺だけでなく高松塚古墳、石舞台古墳を始めとする多くの古墳、近鉄奈良駅前の行基像、甘樫丘、そして平城宮跡と、古墳時代～飛鳥時代～奈良時代の日本史を学び始める前に、既に自然と記憶されているというアドバンテージが奈良の人にはあります。

そして、唐招提寺→鑑真和上→遣唐使、行基像→東大寺の大仏、法隆寺→聖徳太子など、その記憶に多くの事柄が結び付いていきます。更には、小学校、中学校、高等学校と学びが深まるごとにその結び付きはどんどん広がり、学びながらまるで「日本史の教科書の上を歩くような体感」を得ることができます。

卒業後の一生涯の学びにおいても、総国分尼寺の法華寺、日本酒発祥と言われる正暦寺、奈良の苔寺と言われる秋篠寺、藤原不比等ゆかりの海龍王寺、山の辺の道など、手軽・気軽に日本史を学習・体感することができます。また、お隣の木津川市には、恭仁宮跡、浄瑠璃寺(九体寺)、岩舟寺、海住山寺などがあります。このように、お住まいの近くにも、また故郷にも色々な時代の“日本史のアドバンテージ”があるのではないのでしょうか。

「日本史のアドバンテージ！」、私もその恩恵を受けた一人です。これからもこの“アドバンテージ”をフル活用して学びを深めていきます。改めて、奈良に感謝、感謝！です。

※アドバンテージ=有利であること。優位であること。

(7月からライフアートコミュニティにお世話になっております澤井昭仁と申します。どうぞよろしくお願いいたします。)



行基像
奈良市HPより引用



東大寺大仏
東大寺HPより引用



ライフアートコミュニティ佐保の里 (0742-70-5020)

通所介護・居宅介護支援



詳細はこちらから



デイサービスセンター佐保の里 (0742-70-5020)
〒630-8105 奈良市佐保台2丁目902-241

青山デイサービスセンター (0742-23-1020)
〒630-8101 奈良市青山4丁目3番

菅原デイサービスセンター (0742-53-2020)
〒631-0842 奈良市菅原町298-1

新大宮デイサービスセンター (0742-30-3560)
〒630-8115 奈良市大宮町3丁目4-18

菅原デイサービスセンター



ボランティア レクリエーション

菅原デイサービスセンターでは、定期的にボランティアによる演奏のレクリエーションを実施しています。8月14日のお盆の時期でしたがパプリカさんに来て頂きました。歌のお好きなご利用者様もたくさんおられ、1時間程楽しい時間を過ごしていただきました。



みなさん楽しそうです！



とても綺麗な歌声でした。

温泉地への旅行は、好きですか？

日本の温泉地には、全国から選ばれた深い歴史と唯一無二の個性を持つ「日本三名泉」と「日本三古泉(湯)」が存在します。
「日本三名泉」と呼ばれる日本最高峰の温泉は、「有馬温泉」「草津温泉」「下呂温泉」です。
「日本三古泉(湯)」と呼ばれる歴史ある温泉は2つの諸説あり、

1. 日本書紀・風土記などでは、「有馬温泉」「道後温泉」「白浜温泉」
2. 平安時代に記された延喜式神名帳では、「有馬温泉」「道後温泉」「いわき湯本温泉」

* 延喜式神名帳(えんぎしきじんみょうちょう): 祭事を行う対象の神社を一覧表にしたものなんだそうです。

さて、ここでクイズです！ これらの温泉は、いったい何県にあるのでしょうか？



なるほど！



温泉地 県名クイズ

次の温泉はこの県にあるでしょうか。

温泉名		県名
ありまおんせん 有馬温泉	・	・ 福島県
くさつおんせん 草津温泉	・	・ 岐阜県
げろおんせん 下呂温泉	・	・ 群馬県
どうごおんせん 道後温泉	・	・ 和歌山県
しらほおんせん 白浜温泉	・	・ 兵庫県
いわきゆのもとおんせん いわき湯本温泉	・	・ 愛媛県



???



あてはまる県を選んで線でむすんで下さい。

日本には、これ以外にも素晴らしい名湯がたくさん存在します。菅原デイサービスでは、これら温泉やお城、日本の世界遺産や神社仏閣などの所在する都道府県を線で結ぶ脳トレプリントやレクリエーションをシリーズでお届けしております。ご興味のある方は、スタッフにお声がけいただければ幸いです。

(管弦) 半管弦曲、(中絶曲) 楽日、(新編) 新編、(有柳) 呂上、(留綴) 事草、(柳牙) 留身、柳工

新大宮デイサービスセンター

じぶんみらい保育園の 皆様と一緒に七夕の 飾り付けをしました



1. 短冊に願い
事を書いて
2. 七夕飾りを
一緒に作って



利用者様・園児
の皆様と飾り付
けをして



新大宮デイサービスでは、利用者様に季節感を味わって頂く行事(直近、七夕でのご様子)を企画しております。

このほかにも敬老会(次回:9月)・クリスマス会・年末のお餅つき、他にも“子供の日”等時期にあったイベントを実施しております。地域の保育園との交流の機会にもなりますし、お子様が来て頂く事で利用者様の顔つきが明らかにいつもとは違い、また普段レクリエーションに積極的に参加されない方々もこの日ばかりは!!と、とても積極的・意欲的になられます。また、参加されない方でもお子様の様子を見ているだけで本当に嬉しそうなお顔をされます。

この日の七夕のイベントの最初には園児の皆様のが可愛らしい“歌のプレゼント”がありました。一緒に行う普段の体操も趣が全く異なり、賑やかな様子でとても印象的でした。

じぶんみらい保育園の皆様、ありがとうございました！



自慢のご利用者様

菅原ディサービスセンター

奈良市在住

西本 ツヤ子 様 84歳

昭和15年 2月27日生まれ

今回は本人様ではなく、息子様からお話を伺いました。
家族だからこそその思いや葛藤もある中でお二人の笑顔
素敵でした。



西本様をご紹介します

島根県は益田市(島根県の西部・岩見地域)に位置するところのご出身です。6人兄弟の次女さんとして妹さん、弟さんの面倒も見ながら過ごされてきました。学校を卒業されるとその当時は農村から都市部への集団就職が主流で、鐘紡(カネボウ)へお勤めになりました。何事も一生懸命にされる西本様は主任という職責で頑張っておられたようです。そんな中で23歳の時に同郷のご主人とお見合いをされて、お二人の子供さんに恵まれます。ご主人がされていた理髪店のお手伝いをされながら、ご自分でもお顔そりなどの技術を身につけられたそうです。接客業ということもあり気遣いもしながらの中でお姑さんの体調も悪く病院への付き添いをしながらの主婦業と子供さんたちが見ている、寝る間も無いぐらい働いているお母さん！というイメージがあったようです。

なじみの場所・・・

6年ほど前に脊柱管狭窄症をされたのをきっかけにデイサービスをご利用くださっています。現在は月曜日から土曜日まで週6回ご利用で職員や利用者さんとはすっかり顔なじみです。デイサービスでは塗り絵をされることが多く、丁寧に塗られており、西本様独特の作品がたくさんファイリングされていました。週6回のご利用ですが、「行きたくない」と言われることもなく、第二のお家のような感覚を持って頂いているようです。

息子様の思い・・・

現在は西本様、ご主人(89歳)、息子様の3人でお住まいで、ご両親の介護は息子様がされています。

お店(理髪店)をしながらの介護になるために、お店の方も西本様がデイサービスに行っておられる間だけの営業になります。朝の送り出しから炊事、洗濯、夕食の用意とご両親が就寝されるまで、働き詰めの毎日ですが、お母様のことをよく見ておられる分、よく理解されており、色々なことに予測がつくそうです。年々体力も低下される中で、足の運び加減や、体の支え方など以前との違いは息子様が一番ご存知で、デイサービスの職員にもアドバイスをくださいます。週に1日のお休みの日も病院受診等で何かと用事が入っているようで、「休んでない!」と言われていましたが、「切り替えが大切で、デイサービスに行かれている時間で自分の隙間時間を作る」ことが在宅介護の秘訣になっているようです。また、デイサービスと家族様とのコミュニケーションがよく取れているからこそできること、お互いに持ちつ持たれつがあるとのことのお話でした。今回、認知症のお母様を在宅で介護されている息子様の思いやご苦労は施設ではわからない一面を知ることができました。家族様、施設の相互理解により在宅介護があることも考えさせられます。これからもより一層、息子様、西本様が元気で過ごせるお手伝いをさせていただきます。

貴重なお時間をありがとうございました。

インタビュー:森井





オリンピック ～ 託された理想と紡ぐ精神（こころ）～

2024年7月26日から第33回夏季オリンピック競技大会がフランス・パリで開催されています。久しぶりの有観客で選手も観客もすごい盛り上がりで、連日熱戦が繰り広げられています。日本とは時差が7時間もありますが、寝不足でも熱い応援を送っておられる方も多いと思います。



今回の日本選手団は総勢409名です。その中で奈良県出身の出場選手を調べてみました。

- ◆ 柔道女子70kg級 新添 左季 選手(橿原市出身) 去年の世界選手権を制し、初出場
- ◆ 陸上男子100m 東田 旺洋 選手(奈良市出身) 日本選手権で2位に入り、同じく初出場
- ◆ 競泳女子800mリレー 小堀 倭加 選手(橿原市生まれ) 東京大会に続き2回目の出場 の3名です。

パラリンピックでは、

- ◆ 車椅子バスケットボール女子 西村 葵 選手(奈良市出身) 初出場
- ◆ 陸上男子 1500m 赤井 大樹 選手(橿原市出身) 東京大会に続き2回目の出場 の2名です。



ちなみに409名中の3名とは1%にも満たない確率です。

現在の日本の総人口は1億2396万人で、15歳以下と65歳以上を除く人口分の409名でも0.0008%の確率です。オリンピックに出場できるという事がいかに至難の業で貴重であるかと改めて思い知らされます。

オリンピックの3つの価値はオリンピック憲章に表現されており、それを現代的に言い換えるとうなるそうです。

- 「卓越(Excellence)」・・・ スポーツに限らず人生においてベストを尽くすこと。大切なのは勝利することではなく、目標に向かって全力で取り組むことであり、体と頭と心の健全な調和をはぐくむこと。
- 「友情(Friendship)」・・・ スポーツでの喜びやチームスピリット、対戦相手との交流は人と人を結び付け、互いの理解を深める。平和でより良い世界の構築に寄与する。
- 「敬意／尊重(Respect)」・・・ 互いに敬意を払い、ルールを重視することはフェアプレー精神をはぐくむ。オリンピックムーブメントに参加するすべての人にとっての原則。



アスリート達は国、人種、言語、慣習すべての垣根を超えて、互いに尊重しあっています。次の選手が競技に集中できるよう興奮する観客に静まるよう促したり、自分のスパイクが顔面に当たった選手を気遣い声をかけたり、ケガで棄権した選手の国のバッジを持って表彰台に登壇したり、競いあった相手に対する敬意の現れだと感じる言動を目にするたびに心が温かくなります。けれども応援しているはずの私達はどうでしょうか。サポーター同士の争いやSNS上で個人が特定できない事をいい事に、負けた腹いせにチームや個人を誹謗中傷するというニュースが絶えません。オリンピックの本来の価値観からズレてしまっているのはアスリートを見ている私達の方ではないでしょうか。

「オリンピックの理想は人間を作ること、参加までの過程が大事であり、オリンピックに参加することは人と付き合うこと、すなわち世界平和の意味を含んでいる」と考えた近代オリンピックの提唱者クーベルタン

「人生にとって大切なことは成功することではなく努力すること」

この言葉はオリンピックアスリートだけのものではなく、多くの人々が共感し、私達の日常で活かすことができるものではないでしょうか。私はこの言葉の意味を噛みしめて、精一杯の声援をアスリートみなさんに送りたいと思います。

未来の子供たちにその精神が受け継がれていきますように・・・ 「がんばれ!日本!」

(JOC日本オリンピック委員会WEBサイト より一部引用)

ライフアートコミュニティ佐保の里 田村 美和





コロナ第11波の到来

今年も昨年以上の猛暑が日本列島を襲っていますが、同時に新型コロナウイルス感染症が再び猛威を振るっています。

第5類に切り替わった昨年5月以降、感染者数はそれまでの「全数把握」から、インフルエンザ等と同様、全国5000の医療機関からの報告をもとにした「定点把握」に変わりました。マスク着用に関しても個人の判断を尊重するという考え方になりましたが、決して収束したわけではありません。

厚生労働省のデータでは、特に7月に入ってから拡大の勢いが増し、10週連続で増加しています。現在流行しているのはオミクロン変異株の「K.P.3」で、これまでの免疫を回避、感染力も強いとされています。つまりこれまでに感染した方でもまた感染する可能性が高いということです。

年末年始、春休みやゴールデンウィーク、夏休み前後の時期に感染の波が起こっており、人の社会的な動きが活発になる時に拡大する傾向があります。

弊社でも職員だけでなく、利用者様にもマスク着用等の感染症予防の対応をお願いしております。基礎疾患がある方も多く、重症化する恐れもあります。また担当者会議等で職員が自宅を訪問させていただく機会もあるかと思いますが、家族様におかれましてもご理解とご協力をお願い致します。



■ 詳しい情報はこちら

厚労省

検索



※厚生労働省HPより一部引用



格物致知 ～人間学を磨く～

毎月実施している業務会議や研修の一環として、「致知(ちち)」の研修を行っています。致知とは、「人間本来の知恵や生きる力は実際に物事にぶつかり、体験することで得られる」という朱子学の教えです。致知出版が発行している致知という雑誌には、各界各分野で一道を切り開いてこられた方々の貴重な体験談が毎号紹介されています。その体験談を読み、自分自身の体験や仕事に対する考えを研修の場で発表します。また発表を聞いた人は、相手が持っている価値観や哲学のどんなところが素晴らしいかを伝えます。

「美点凝視」の精神でお互いの素晴らしいところを見つけて認め合い、尊重しつつ、共に人間的に成長することがこの研修の目的となっています。



青山デイサービスセンター 上東 剛志